

## 令和3年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○笑顔があふれる学校・・・児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○元気で活力ある学校・・・児童が健康・安全・安心に過ごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○創造力のある学校・・・児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。 <課題>朝読書、放課後補習を日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力の数値目標が達成できていない。さらに特別支援教育の充実が課題である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	放課後補習教室の実施・・・2年～6年生 各学期に1回以上(1時間以上) 家庭学習期間の実施・・・年4回	診断テストの平均正答率が一学期より5ポイントアップ 家庭学習カードの提出10割	A	C	補習は、通回くぐん教室で行うことができている。しかし東葉ベータアップでの1学期当初と終わりの比較では、2・3年生は正答率が上がっているものの、4～6年生では正答率が下がってしまっている。日からの取組を工夫する必要がある。	B	コロナ禍の中教師達の努力に感謝。課題は数えているが、取組みとしては十分だと思。基準平均に比べ低いとのことだが、学力は急には向上しない。しかし、向上にあることなので、業者補習等うまく使い、今後に期待したい。	都平均には到達していないものの、評議員の方々の指導のよりに向上はなっている。学力は急には向上しない。しかし、向上にあることなので、業者補習等うまく使い、今後に期待したい。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業・・・各学期1回以上(1時間以上) 図書館スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 図書館を使った調べ学習コンクールの参加	調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に関する肯定的回答9割	A	B	朝読書や給食後の読書タイムなど児童らが読書に親しみやすい取組んでいる。その反面、タブレットが一人一台配布されていることにより、調べの際に活用できない児童も出てきた。読書科などの時間に図書室利用する良さも味わわせるようにする。	A	読書週が定着した。タブレットの活用も時代に選んでいく。タブレットの活用も今後に期待したい。 読書の更なる活用を今後に期待したい。 読書は大事です。続けてください。 朝読書や給食後の読書が安定していることはよいと思う。 文字に親しむことの大切さを学べることに感謝	読書時間は、引き続き朝と給後に選んでいく。 探究活動については、図書資料とタブレット読書それぞれの長所を最大限に活用し、意図的に使い分けられるようにしていく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	計画的に行うだけでなく、体育の授業の実施 各学年別体力向上運動の公開(運動委員会作成)部にはならぬ大縄大会期間の実施	児童アンケートで、運動を感んでいる肯定的な回答児童8割 (限定的)新体力テストにおいて、昨年度比が向上した児童9割	A	A	児童アンケートによる運動に対する肯定的な回答が13級あり、運動意欲の高い児童が多くなった。しかし60%の児童が1学期あり、学級差ができてしまった。	A	コロナ禍の中できることを確実にこなす工夫している。体力向上に向かっており、頑張っている。	新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとっている。体力向上に向けて取り組んでいく。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパコナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいた授業・・・358時間	児童アンケートでやり遂げた喜び・将来への夢や希望に関する肯定的な回答9割 オリパラ教育に関する興味・関心が高まった児童9割	A	B	オリンピックを教室で観戦し、オリパラについて感想を書いたり、月曜朝会で校長がオリパラの話をしたりするなどしっかり取り組むことができた。アンケート結果は8割以上が8級であった。	A	観戦は中止となったが、やむなしと考える。テレビ観戦など代替案が十分行われたと考える。日頃の教育が大事だと思います。	スポーツに慣れてだけではなく、ボランティアマインド、障がい者理解、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等も計画で行っていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	昼休みにおけるハロータイム(英語遊び)の活用 外国語専門講師との緊密な連携	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	A	A	デジタル教材を使うことはALTと連携しながら進めている。しかし、児童が楽しいと感じるまでには至っていないので、さらなる教材研究が必要である。	A	デジタル教材を使うことはALTと連携しながら進めている。しかし、児童が楽しいと感じるまでには至っていないので、さらなる教材研究が必要である。	授業以外の活動は継続していく。加えて、外国語講師やALTとの連携を強化し、取り組みに対して授業改善を図っていく。
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	学校の実施・・・年間2(1回は学校職員自らが)いじめ未然防止授業・・・各学期1回以上 いじめ防止「まっこと行動宣言」の作成・・・通年 SOSの出し方指導・・・5年生1回 長良川講話・・・年3回 児童アンケート・・・年3回 生活指導委員会による情報共有・・・毎週金曜日 おやじの会の全員面接・・・全学年 SSWの取組・・・全学年 「学級SNSルール」・「東小子どもルールブック」・「東小家庭学習の手引き」・「東小家庭学習がはばかカード」の作成と活用・・・年4回 情報モラルについての学習・・・各学年1回以上 学年単位での接摩運動・・・年6回以上 おやじまつマスタの実施・・・年3回	児童アンケートで地域や学校でいざつをされているかについて肯定的な回答が9割 学校満足度調査(Q-U)による満足群の割合が全国平均を超える学級9割 いじめの早期解決 継続0% 不登校継続数昨年年度比減少	A	A	健全育成に向けた取組はすべて計画通り行われている。成果としては、インターネット被害がないことと児童意欲に対する肯定的な回答が8割を超えている学級が、6割を超えていることなどが挙げられる。あいさつマスタの実施により、児童アンケートで肯定的な回答が9割を超えた。	A	不登校児童数の減少は、よい成果と考えたい。大変ですが、先生たちの頑強に期待したい。 Q-U等のアンケートをとりその結果を見直して進めることはいじることと思。その成果が確実化の上昇に表れていると思います。 SOSの出し方の授業もよい。SOSが出た後の対応をしっかりとやってもらいたい。 未来の宝物を大切にしている。 いじめはもちろんなくなければなりません。それが打ち勝ち気分、力の指導もお願いしたい。	Q-U1回分の分析を丁寧に行い、それを後半の指導に生かしていく。2回目の調査において確認し、さらに改善点があれば、3学期に生かしていく。 日々の連携を堅持しつつ、いじめ対策はしっかりと取り組んでいく。また、日常のOJT研修も充実に行っていく。
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個別に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携・・・各学期授業参観・適時授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別の教育支援計画、個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学級崩壊なし	A	A	SC、心理士、専門員、介助員で連絡を密に取り、児童の困り感に応じた支援を続けることができている。アンケートでの学級も肯定的な回答が8割後半以上だった。教職員が児童としっかりと向き合い、学級崩壊することなく1学期を終らされた。しかし、人の助けによりトラブルを抱えている児童がいるという一面もある。	A	専門員、教員等各員の連携がうまく取れているとの事なので、これらも継続してほしい。 荒れる前の対策等、大変細部に至るまでの取組がされている。数値目標も達成されている。 手厚いフォローがよい。	専門家からの指導を受け、教員一人一人の指導力の底上げを図っていく。 エンカレッジルームの有効活用と共に教職員で組織的に対応するよう引き続きしていく。
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	教材提示装置やデジタル教科書、タブレットの活用を週3日以上実施 ICTアサインと連携した授業・・・年5回 目的を明確にしたICT教員研修・・・年3回	学年に応じて、ICTを活用できる児童の割合8割	A	A	ICT研修会を行い、タブレットの活用方法などについて学ぶことができた。課題は、児童のICT活用の素養を高めることである。	A	校長先生のリーダーシップのもと環境整備も進み、ICT機器の活用ができてきている。子供たちも自主的に活用していること、素晴らしい。	日常の授業に、道具の一つとしてタブレットを活用して行くよう。研修を定期的に行っていく。また、機器の使用法の共通理解を徹底していく。
	教員の授業力の向上	教育課題実践推進校として「主体的に学び、考え、表現できる児童の育成～SDGsの視点を取り入れた、「できた」「わかった」が開える全員が輝く学校づくり～」をめぐり研究する	授業観測・・・年3回以上計84回以上 L0研究授業・・・年6回と事前授業10回 OJT研修・・・年6回以上	児童アンケートで分かる授業への肯定的な回答8割	A	A	全学級で事前研修授業を行い、授業改善に努めている。児童も観た授業が分かりやすいと感じている。これらも教員の指導力を上げるべく研修を重ねる。	A	研究授業を生かして、今後も授業力の向上を継続してみたい。 教員の皆様の取組がよく、児童の評価も高くなる。	教育課題推進実践校として授業研究を通じて指導力向上を図っていく。また、日常のOJT研修も充実に行っていく。
	特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議・・・年1回 6年生の体験授業・部活動の実施連携・・・年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	B	A	小学校中学校連携教育プログラムは感染症予防のあふれでできない、それでも多くの6年生が中学生になることに希望をもっている。	A	鹿骨中学校を中心に、コロナ禍においても連携を図っていること、とても良いと思う。鹿骨中に感謝。中学校に行く前に希望をもてるのはよい。
地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム・・・各学年1回 地域を活用した学習・・・各学年1回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	A	A	今年度は相模湾学習など実施できない行事がある反面、ふるさと学習などどの学年も実施する。アンケートで肯定的な回答が9割を超えた。	A	地域との連携で目標が達成されている。継続して進めていく。	地域あての学校と考え、「ふるさと学習」等を最重活動として今後も行っていく。	
SDGs教育の充実	持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	もったいない運動の取組実施 全学年 環境を考える学習・・・各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	A	A	SDGsの研究を進めていることもあり、児童の意識が高まっている。児童アンケートで肯定的な回答が9割あった。	A	コロナ禍の中、SDGsを進め、効果も上げている。大変工夫されていて素晴らしい。継続して研究を行っていただきたい。	SDGsを起点として、カリキュラムマネジメントを行い、児童の自主的な活動を促すようにしていく。	